●ネパール・ブータン視察旅行に参加して
～初孫そしてロンドンオリンピック～

豊中工業株式会社
代表取締役　前川　功治

7/28 日から 8/4 日までテクノプラザナゴヤ 001 主催による海外視察旅行に参加しました。

他のテクノさんからの参加もあり浅井会長を団長に総勢 23 名の大所帯となりました。

7/29 日午後、前泊したバンコク経由で最初の訪問国ネパールの首都カトマンズに降り立ちました。まず訪れたのがこの国最大のヒンドゥー教寺院があるパシュパティナート。早くも異文化の洗礼を受けることとなりました。寺院の横を流れる川岸には火葬場があり、これからまさに火葬が始まろうとしていました。火葬場といっても、木で簡単に枠組みを作りその上に布で覆われた死者を載せ火葬とするのです。遺灰はガンジスの支流である聖なるこの川にそのまま流されます。そしてお世辞にも綺麗と言えないこの川で子供達が水浴びに興じています。この国で嬉々として遊ぶ子供らしい表情を見たのは、後で思えばこれが最後のような気がしました。

翌 7/30 日、喧騒と土埃の中ダルバート広場へと続く旧市街を散策しました。時折のスコールでぬかるんだ道の両側には日用品や衣類、雑貨等を売る、古びた木造の家々がびっしりと立ち並び一種独特の雰囲気を漂わせています。途中立ち寄った寺院では、観光客相手に懸命に花売りをする母親の横で一人の赤ん坊が遊んでいました。彫りの深いかわいい顔立ちでしたが、髪の毛は何日も洗っていないのか逆立っています。寺院内は線香の匂いと暑さで蒸しかえり、ようやく自由になる、汚れた小さな手を使いながらわずかな食べ物を口に運んでいました。私には何故かその目が涙で潤んでいるように見えました。私事で恐縮ですが、今年の一月に初孫が生まれました。爺馬鹿ですが、赤ん坊の目は本当にかわいいもので、あの寺院で会った赤ん坊の目も、生まれた時はきっと眩しい程の輝きを放っていただろうに…。そう思うと一瞬目頭が熱くなりました。

ようやくの事で喧騒の町並みを抜け出し、通りで私達が乗るツアーバスを待っている時でした。一台の黄色いスクールバスがやって来ました。降りてきたのはこざっぱりした身なりの子供達。親達が出迎え、それぞれに車やバイクで帰っていくのでした。今さっきとはまた違ったカトマンズの生活を垣間見たようでした。

夕刻、私達はネパールの日本大使館を訪問する機会に恵まれました。2008 年貧富の差を解消すべく王制が廃止されたものの、未だこの国には立法府が無いとのことでした。

7/31 日、ブータン王国の玄関、パロ空港に到着。空港建物に大きく張り出された 5 代国王ワンチュクご夫妻の写真にお出迎えを頂きました。早速 2 台のマイクロバスに分乗し、首都ティンプーへの山間移動 2 時間、小さな村が点在し牛が草を食む牧歌的な風景に出会うことが出来ました。学校帰りの子供達とすれ違うと、にこやかに手を振り、声をかけてきます。ほっと心が和みます。

滞在した 3 日間で私達はブータン初の新聞印刷工場やトヨタ車販売店そして仏教色豊かな寺院などを訪れました。それぞれの場所で接する人たちから穏やかな雰囲気を感じることが出来ました。緩やかに訪れる近代化の中、経済発展と環境・伝統文化の保護そして良い統治を願うこの国の GNH（国民総幸福量）が末永く続くことを願わずにはいられませんでした。

コントラスト鮮やかな 2 国の旅を終えると日本は、ロンドンオリンピック真っ最中。試合に臨む選手の目、そして安堵の目。色々な目の輝きに出会えたこの夏ですが、自身も時に応じて輝きを発揮できる目であり続けたいと願っています。諸先輩のさまざまなお話や、時にかなった食べ物の差し入れが、この旅をまたより一層思い出深いものにしてくれました。今回の旅を企画いただいた皆様に心より感謝申し上げます。